

# 不稔米を発生させるイネカメムシの被害にご注意ください

- イネカメムシの発生が近年、拡大傾向にあります。
- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生させます。**



イネカメムシの成虫

- 発生量が多く、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。

- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。



イネカメムシ幼虫（5齢）



基部斑点米

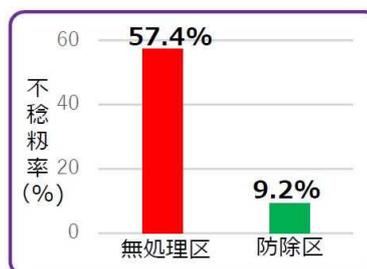


図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

注)防除区：登録農薬の散布を出穂期0日後と出穂期14日後に実施  
山口県農林総合技術センターの試験研究結果から抜粋

## イネカメムシに対する防除対策

### ○情報のチェック

県の病害虫防除所（農林水産研究指導センター）が発表する発生予察情報や注意報などをこまめにチェックしましょう（下記のアドレスまたは右のQRコードからアクセスしたホームページの「新着情報」でご覧いただけます）。

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



### ○圃場内への初期の侵入を把握

圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、圃場への初期の侵入の把握に努めましょう。他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることは少ないです。

### ○防除の実施

イネカメムシの発生量が多いと判断した場合は、**1回目の防除を出穂期に実施**しましょう。また、過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、**出穂期の防除を計画的に実施**しましょう。防除後も圃場の発生状況を確認するために、圃場をよく観察しましょう。

### ～農薬例～

農薬名	希釈倍率	使用薬量/10a	使用時期	使用回数
スタークル液剤10	1,000倍	60～150ℓ	収穫7日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤 アルパリン顆粒水溶剤	2,000倍	60～150ℓ	収穫7日前まで	3回以内
スタークル粒剤 アルパリン粒剤	-	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	2,000倍	60～150ℓ	収穫14日前まで	3回以内
キラップフロアブル	1000～2,000倍	60～200ℓ	収穫14日前まで	2回以内